

6 月定例教育委員会会議録【概要版】

開催年月日	令和 8 年 6 月 1 5 日（月）	場 所	市役所本庁 災害対策本部室
開催時間	1 5 時 3 0 分 から 1 7 時 6 分まで		
出席者	教育長	高森 賢一	
	教育委員	宮田 靖、甲斐 千尋、遠田 真央、廣池 加代子	
	参 与	松田 康寿、早瀬 誠一郎、岩佐 正文、日高 弘子、岩切 隆人 吉田 尚良、尾方 農一、甲斐 保孝、多田 宏	

◎ 開 会

高森教育長が開会を宣した。（15 時 30 分）

◎ 「未来へつながる延岡市教育環境づくり提言書」の提出

◆ 「未来へつながる延岡市教育環境づくり全体検討会議」で審議された提言書が、全体検討会議会長である、衣笠高広 九州医療科学大学教授より提出され、下記のとおり説明を行ったのち、質疑応答が行われた。

● 提言書は、延岡市が直面する少子化、教育施設の老朽化といった課題に対し、将来を見据えた質の高い教育環境をどのように実現していくか、その具体的な方向性を示すものである。

提言書の主な内容：

- 主な課題：人口減少と小規模校の増加、学校施設・プール等の老朽化、廃校施設の活用、地域の集会機能・防災拠点としての課題、学校給食調理場の老朽化と運営負担。
- 目指す方向性：教育施設の連携・開放複合化、学校再編・義務教育学校化による適正規模化、防災避難拠点としての機能強化、学校給食のセンター化・多角化、楽しく明るい教育施設づくり、地域人材の活用と大人の学び直し。
- 実現に向けた課題：ビジョン目的の共有と合意形成、財政資源確保、人材確保と運用体制、安全管理とリスクマネジメント、交通アクセス。
- 今後の展開：教育委員会は、今回の提言内容を、本市の教育大綱（5 年に 1 度策定）に盛り込む方向で検討を進める。7 月 8 日の第 2 回総合教育会議にて、教育大綱の事務局案が提示され、提言内容の反映状況が確認される。

◎) 第3章「未来につながる教育環境を目指して」は、現在の教育課題を的確に捉えていると強く感じる。私が最も注目したのは、「教育施設の複合化」である。学校の小規模化に伴い生じる空きスペースの活用は、学校施設をコミュニティセンターとして利用している事例のように、複合化において重要な視点である。

◎) 全体検討会議の中で、複合化の件について何か意見が出たか。

⇒) 複合化については、全体会議でも様々な立場の人々、特に地域の代表者も交えて議論された。公民館機能や図書館機能の複合化は、各学校の空き教室や既存の図書室、図書館の活用により可能である。これは以前から提唱されてきた「開かれた学校」の理念をさらに推進するものであり、本市の未来の教育環境の発展に寄与すると考える。

◎) 先日、浦城小学校のわくわくフェスタに参加したが、素晴らしい内容であった。学校・家庭・地域の強い繋がりが感じられた一方で、そこで感じた課題は、提言書の第4章に集約されており、丁寧に可視化されている。これを指針とし、今後、大綱に盛り込むべきであると考えます。

高森教育長) 他に意見がないようであれば、改めてお礼の言葉を述べたい。

衣笠会長をはじめ、全体検討会議の委員の皆様には、長きにわたり、6年度の2月末から、年度で言うと3ヵ年、約1年半の期間、公開の場で熱心に議論いただき、心より感謝申し上げます。この提言書は、本市の教育施策を推進していく上で、貴重な羅針盤、指針となる。提言の内容も真摯に受け止め、今後の施策に具体的にどのように反映させていくのか、検討を進めていきたいと考えている。衣笠会長は、これをもって本検討会議の会長職が終了となる。

◎ 会議録の承認

5月27日(水)に開催された5月定例教育委員会の会議録が承認された。

◎ 事務報告

◆ 教育長より以下の業務報告が行われた。

- ・ サンシャインサロン(教職員自主研修会)講話
- ・ 高校生がつくる「行ってみたい延岡」スタディツアー企画発表会
- ・ 延岡市育英会選考会・理事会
- ・ 学生インターンシップ4大学とのオンライン会議
- ・ Kanameラーニングについてオンライン協議
- ・ 全日本実業柔道団体対抗大会

◆ 教育委員より以下の報告が行われた。

宮田委員) 6月13日から14日にかけて開催された、のべおか子どもインリーダークラブの宿泊研修を拝見した。2日間にわたる自然体験活動や安全管理を含む多様な活動は、子どもたちの主体性を育む狙いがあったと推察される。プログラム内容は、リーダーとしての知識や技能習得の貴重な機会を盛り込んだ素晴らしい企画であった。様々な学校から集まった小学4年生から6年生の児童たちは、ほとんどが初対面であったにもかかわらず、相互にコミュニケーションを深め、ジュニアリーダーの協力を得ながら楽しんで活動する姿が印象的であった。先日開催された総合教育会議でも体験活動について議論されたが、こうした年齢での研修や実践を通じた体験活動は、物事への積極性、友との協調性、粘り強さなど、学校の授業だけでは養えない非認知能力の育成に繋がると考える。しかし、懸念点も認められた。今回の参加者は14名であり、会長からも今年は少なかったとの発言があった。市内の小学校のためにも、より多くの児童に参加してほしいと考える。地域の子ども会の数が減少している現状については、前回の社会教育課長の説明にもあったが、少子化や人間関係の希薄化が進む現在においてこそ、子ども会の育成、地域コミュニティ活性化のための子ども会活動、そしてリーダー養成は重要であると考えます。また、多くの保護者の協力と理解も不可欠である。2日間の研修が充実したものとなったのは、社会教育課の担当職員をはじめ、のべおかインリーダークラブのスタッフや少年団体指導員の方々の熱心な支えがあったためである。しかし、これらの活動者は自身の仕事を抱える中で活動している現状がある。こうした活動への理解促進、指導者や育成者の人材確保、体制の充実が、今後の大きな課題の一つとなると認識する。

廣池委員) 先日、浦城小学校のわくわくフェスタに参加した。現在、浦城小学校には地域の子ども1名と市内小学校から2名の子どもが在籍しており、校長を含め6名の教員で対応している。オープンスクールを兼ねており、市内から3世帯の家族が参加した。このイベントは「うらしろスマイルプロジェクト」が主催し、野菜の植え付けや収穫体験など、多岐にわたる形で学校を支援している。イベントでは、川島町の木村板金が板金加工体験を実施し、見事な作品が完成した。その後、野菜収穫体験、座学による学校紹介、地域住民との座談会が実施された。参加者の中には今年卒業した児童の保護者がおり、浦城小学校での体験談を子どもの代わりに語った。校長からの1年間を漢字で表す問いに対し、その保護者は「自信」と回答した。学校紹介では3名の子どもがそれぞれ語った。学校に登校が困難であった子どもたちと聞いているが、堂々と3分から5分のスピーチを披露した。

これほど多くの人前で長時間話すことができるのは驚くべきことである。浦城小学校で培われた「自信」が、彼らの言葉に表れていると感動した。また、卒業して中学生となり、現在 120 名規模の学校に通う子どもの保護者も参加しており、学校、地域、家庭との関わり合いの中で、多くの人々から称賛や声かけを受け、自信を培ったことを強く語っていた。様々な苦労があると思われるが、スマイルプロジェクトが無料送迎を実施していると聞く。しかし、やはり多様な課題が含まれていると考える。これらは先程の提言書の第 4 章に示された課題と合致しており、今後、関係機関の責務となるであろうと認識している。

遠田委員) 先日、方財小学校に招かれ、6 年生からの質問コーナーのようなものに参加した。私と、方財小学校の用務員の方の 2 人が、それぞれ 3 人ずつの子どもたちから様々な質問を受けた。私は、なぜプロサーファーになろうと思ったのか、なぜサーフショップをやろうと思ったのか、といったことを聞かれた。その中で、様々な話になったが、印象的だったのが、サッカーをしている児童が、監督の指示が不明瞭な時にどうすれば良いか、といった質問をしてきたことである。発言をためらいながらも、気を使いながら質問をしてきたところが、かなり様々なことを考えていると感じられた。私は、「もしそれが感情的に言っているのだとしたら、聞いているふりをすれば良いのではないか」と答えた。また、「自分がやれることをしっかりやっておけば、そうやって怒られたことに対して、何か問題を生むのでなければ、良いのではないか」、といった話をした。もう少し話したかったが、時間が限られていた。先ほどの提言書の中で気になったのが、第 2 条の 2 の 1 「人口減少と小規模校の増加」の項目で、「1 学年 1 学級の学校では 6 年間クラス替えが行われず、同じ集団で過ごすことから、人間関係において課題が生じることがある」とあったことである。私自身、小学校 1 年生から 6 年生までずっと方財小学校であったため、クラス替えがなかった。それによって、自分がそういう人間関係づくりに課題が生じているのかと疑問に思った。

甲斐委員) 自分は 6 月から始まった市民大学院に参加しており、九州医療科学大学の先生が、今後 12 回、毎月 1 回、講義を行う。2 月に終了する予定であるが、受講者は高齢者の方が多い。今回の講義は会話を円滑にすることであった。聞こえが悪いと、健康寿命の問題が出てくる。人との繋がりが減り、孤独になるといった内容で、1 時間半の講義であった。自分の知らない世界というか、改めてそういうことを言葉にまとめてもらおうと、相談だけにとどまらず、行動することができ、知識を広めることができるのではないかと今後期待している。もう 1 つ、小学校のプール授業についてであるが、これは小学校に通う子どもを持つ保護者からの意見である。プール

授業が始まってくると、炎天下の中で1時間程度の授業を行い、先生から「火傷が4名」といった報告があるという。先生方は、どちらかというと火傷を心配しながら、子どもたちを指導しているようだ。そのような状況で、熱を出し、寝込むといった話も聞いた。さらに、着替えについてだが、今の子どもは成長が早く、高学年になってくると、やはり着替えの問題や、一緒のプールで授業を行うのが良いのか悪いのか、といった疑問がある。そのあたりの詳しいことについて、指導の仕方を協議してもらうのも一つの手ではないかという意見がある。それについて事情聴取し、状況を把握した方が良いかもしれない。特に着替えについては、今の時代に合わせた考え方を持つことも大事ではないかと思った。

◆ 各課からの事務報告

- 学校教育課長から、5月30日から開催された延岡地区中体連総合体育大会や5月期の生徒指導に関する状況等について報告があった（その他の課・館は文書による報告）。

◎ 議 事

◆ 議案第8号 延岡市立図書館協議会委員の委嘱（図書館）

- 図書館長より、延岡市立図書館協議会委員について、人事異動等により交代の申し出があった2名について、新たに選任し、任期は、前任者の残任期間となる令和8年7月1日から令和9年6月30日までの期間で委嘱する旨の説明があり異議なく承認された。

◆ 議案第9号 延岡市立学校における学校運営協議会委員の委嘱（学校教育課）

- 学校教育課長より、学校運営協議会委員について、今回新たに70名を委員として委嘱し、既存の248名を継続して委嘱する旨の説明があり、異議なく承認された。

◎ 協議事項

◆ 地域寺子屋事業について（社会教育課）

- 社会教育課長より、下記のとおり説明を行ったのち、協議を行った。
 - 事業概要（事業開始年度、目的、実施主体、参加対象、実施期間、行事内容、開催場所、補助金額）について説明。
 - 令和7年度は16団体が実施し、延べ2,697人が参加。世代間交流、地域との繋がり強化、子どもたちの健全育成、地域の活性化などの効果が報告された。
 - 実施団体から他団体の状況を知りたいとの意見があり、情報を共有すること

を目的に、令和7年度に初めて、実施団体の意見交換会を開催。「参加しやすい子ども目線でのゲームなどの遊びを導入したい」「参加者やボランティアの募集に苦勞している」「他グループの学習支援方法が参考になった」といった意見が出された。

- 今後も各実施団体の活動内容の共有などを通して、効果的に事業を実施していく方針が示された。

- ◎) この数字を見てみると、校区外からも参加している。学校区の地域での展開事業として子どもたちが参加しているイメージが強いが、校区外からも参加しているのか。

- ⇒) 説明した通り、地域の方々が、地域の子どもたちを対象に、学習支援をしたりするのが基本である。校区外については、地域的に近いところの子どもたちが参加したということで、野地東公民館や、こどもの習い事応援プロジェクト（小学生69名、107名参加）の地区である。そこに近接したところから来ているようだ。これが校区外ばかりだと趣旨から外れると思うが、そのような子どもたちも受け入れている。学校区と、公民館、行政区にずれがあるため、そのようなことが生じる。夏休みの期間だけ、他県から帰ってきている子どももいるかもしれない。

◎ その他

◆ 幼児教育を取り巻く環境について（学校教育課）

- 学校教育課長より、幼稚園（文部科学省管轄）と保育所（こども家庭庁管轄）の違い、認定こども園制度の概要、幼保小連携の重要性（「架け橋期」、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」）について説明された。

◆ 放課後子ども教室と放課後児童クラブの違いについて（社会教育課）

- 社会教育課長より、放課後子ども教室（文部科学省、社会教育課所管）と放課後児童クラブ（こども家庭庁、こども保育課所管）の目的、対象、実施形態、費用などの違いが詳細に説明された。

◆ 7月定例教育委員会の日程について（教育政策課）

- 7月定例教育委員会については、7月29日（水）の13時30分から、災害対策本部室で開催する。

◎ 閉会

高森教育長が閉会を宣し、終了した。（17時6分）